

活動報告（平成 17 年）

1 戦史関連研究会

◇戦争史研究国際フォーラム◇

「エア・パワーの将来と日本—歴史的視点から—」

9月14・15日（グラントヒル市ヶ谷）

基調講演

「日本の戦争とエア・パワー—歴史的視点から考えた今日的インプリケーション」

元航空幕僚長 元空将 大村 平

特別講演

「エアパワーの最初の世紀と技術、文化、その軍事的有用性」

英国、ロンドン大学キングス・カレッジ教授 フィリップ・セイビン

研究発表

「エア・パワーの誕生と発展」

米国オハイオ州立大学名誉教授、米防衛分析研究所研究員

ウィリアムソン・マーレー

「日本におけるエア・パワーの誕生と発展 1900～1945年」

防衛研究所戦史部所員 柳澤 潤

「米国とエア・パワー」

米国、ランド研究所上級研究員 ベンジャミン・ランバス

「日本とエア・パワー —防衛政策及び軍事上の問題点とその解決方法」

帝京大学教授 志方 俊之

「新しい戦争の時代におけるエア・パワーの役割」

イスラエル、テルアビブ大学教授 マティティアフ・メイツェル

「将来の東アジア地域戦略環境とエア・パワーの役割」

韓国空軍大学校教授 金 仁烈（キム・インヨル）

「エア・パワーの将来と日本の国家戦略」

防衛研究所戦史部主任研究官 石津 朋之

議 長

防衛研究所戦史部長

林 吉 永

コメント (順)

防衛研究所戦史部第 1 研究室長

庄 司 潤一郎

航空自衛隊幹部学校主任教官

源 田 孝

防衛研究所副所長

山 口 昇

元統合幕僚議長 元海将

佐久間 一

◇戦争史日韓学会議◇

「東アジアにおける朝鮮戦争」

12月2日 (防衛研究所大講堂)

第 1 セッション「朝鮮戦争と日本」

「朝鮮戦争と日本－日韓関係史の視点から－」

防衛研究所戦史部長

林 吉 永

「朝鮮戦争期における日本の海上防衛力再建構想」

防衛研究所戦史部所員

石 田 京 吾

第 2 セッション「朝鮮戦争と韓国」

「地政学的観点から見た毛沢東の韓国戦争介入動機」

韓国国防部軍史編纂研究所前任研究員 徐 相 文

「韓国戦争が韓国軍に及ぼした影響－軍構造改編と軍事力増強を中心として－」

韓国国防部軍史編纂研究所前任研究員 南 廷 屋

議 長

防衛研究所戦史部第 1 戦史室長

庄 司 潤一郎

コメント (順)

韓国国防部軍史編纂研究所 所長

李 鐘 學

慶応義塾大学教授

安 田 淳

1月26日～28日

「エア・パワーとエア・パワードクトリンについての考察」

「空戦から空爆へー1967年から2003年まで」

「将来のエア・パワー像—国際関係と各国のドクトリン」

イスラエル・テルアビブ大学教授 イスラエル軍事史学会会長 M.マイツェル

2月22日

「冷戦と日本再軍備」

愛知学院大学教授

柴山 太

3月9日

「史料協力」

「独立記念館史料の現況、相互交流を行なうための提言」

「日帝末期韓国人に対する徴兵制と抵抗」

韓国独立運動史研究所長

金 喜 坤

3月9日～11日

「ランドパワー対シーパワー」

「航空機設計の戦略的意義」

「第2次世界大戦の遂行と結果がエアパワーにどのように形成されたか」

「ベトナム戦争におけるエア・パワー」

米オハイオ州立大学教授

ジョン・ギルマーティン

3月23日～25日

「コンゴ動乱（1960年～61年）」

「NATO創設時のベルギーの役割(1947年～50年)」

「ドイツの西方電撃戦とベルギー（1940年5月）」

ベルギー王国陸軍士官学校教授国際軍事史学会会長

リュック・デ・ヴォス

5月27日

「近代日本の政軍関係」

山口大学教授兼山口大学独立大学院東アジア研究科教授

瀬 瀬 厚

6月1日～2日

「イギリスのインテリジェンスと太平洋戦争の勃発」

「リース・ロス使節とイギリスの対アジア外交 1934-7年」

ロンドン大学 LSE 准教授

アントニー・ベスト

6月13日

「太平洋戦争時のカナダ等英連邦捕虜・民間人抑留者」

カナダ王立ミリタリーカレッジ教授

A・ハミッシュ・アイオン

7月13日

「朝鮮戦争研究の新動向」 慶應義塾大学教授

赤木完爾

7月19日～20日

「中国の朝鮮戦争への対応と認識」

「中国の隣国関係」 北京大学国際大学院教授

張小明

7月28日

「日本のエア・パワーについて」

元航空教育集団司令官 元空将

阿部博男

9月5日～15日

「日露戦争に見る日米関係」 上智大学名誉教授

三輪公忠